京都医療センターで妊婦検診や出産をされる皆さまへ

「周産期合併症および母児の予後に関する至適予知指標の確立を目指した研究」

参加のお願い

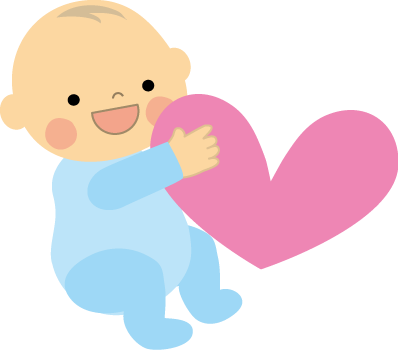
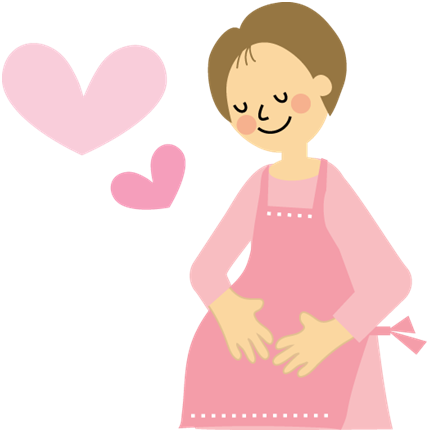
近年、一見健康と認められる妊婦さんにおいても妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病や甲状腺機能異常などの妊娠合併症が潜んでいることがあるといわれています。これらの疾患は、母体のみならず、**胎児の子宮内の環境に影響を与え、産まれてきた赤ちゃんに影響を及ぼす可能性**があります。その影響は出産後数年や数十年後に及び、お母さんやお子さんのメタボリックシンドロームの発症のリスクが上昇すると言われています。このため、分娩前後での合併症等の管理は非常に重要となっています。

しかし、**妊娠中や出産前後の母体・胎児にとって最適な管理方法が確立されていない病態がいまだに多くあります**。よって、妊娠合併症の発症や予後に関わる因子を見つける事が急務だと考えられます。

そこで、本研究では**母児の妊娠合併症が妊娠中および長期的な予後に影響を及ぼすリスク因子を明らかにし、生涯にわたって母児の健康に関わる指標・予測因子等を見つけることを目的としています**。

これらの指標を見つける事が出来れば、**妊娠・出産における母児の健康管理や合併症の早期予防・治療に大きく貢献する事が出来る**と考えています。

つきましては、本調査では、**妊婦健診で行う血液検査などの際に母体の血液を、産後に通常は廃棄される、出生児の付属物である臍帯血や胎盤、羊水につき、一部のご提供をお願いしたいと存じます**。



妊娠中の状態

子に影響？